

平成 27 年度活動報告書

法人の名称 NPO法人ミニシティ・プラス

1. 事業活動方針

NPOとして、設立から 8 年。私たちは定款に基づき、「まちづくり」を通して、大人も子どもも、生まれてきたすべての人が、社会の大切な一員であることをお互いに認め合い、助け合ってこそ、より良い社会がつくられるという団体の理念を、楽しみながら学んでいく事業を実行して来ました。

NPO法人ミニシティ・プラスが 26 年度に実施した主な事業は以下の 4 つです。

「ミニヨコハマシティ」

26 年度のこどものまち「ミニヨコハマシティ」は年度をまたぎ、2015 年 4 月の開催となりました。27 年度のこどものまち「ミニヨコハマシティ」は、例年通りの 3 月に開催しました。

「こどもがつくるまち全国主催者サミット」in 静岡には、NPO スタッフとともにミニヨコ副市長が参加し、全国のこどものまちの代表たちと交流しました。

「つづきジュニア編集局」

東京都市大学と連携しながら都筑区を中心に行っているこどものメディア、つづきジュニア編集局。記者は 60 名となり、年間を通して取材活動を行いました。27 年 1 月には集大成としてタブロイド新聞のつづきジュニアタイムズ（2 万 7 千部発行）を発行し、順調に事業を行ってきました。

「特命子ども地域アクタープロジェクト」

2012 年度新しい公共モデル事業として神奈川県と協働でスタートした「特命子ども地域アクタープロジェクト」は、かながわボランティア活動推進基金 21 の協働事業として再スタート 2 年目となりました。（最長 5 年継続）。公募で集まった小学 5 年～高校 3 年までの 39 名の特命子ども地域アクターが、15 のまちづくり団体に派遣され、各事業の企画から参加して活躍してもらいました。成果発表会は BankART NYK で開催、参加者で満席となりました。

「青少年のアイデアを生かした新しい防災プロジェクト」

横浜市立大学の教員地域貢献事業との連携して「地域で防災活動を担う青少年育成及び、彼らの視点を生かした参加型防災プログラムの構築」実施。5 月にはクラウドファンディングにも挑戦し、寄付を集め、東北被災地研修ツアーには大人も合わせて 29 名が参加。その後の防災ワークショップ、防災キャンプを経て、「こども防災マイスター」が生まれた。

2. 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る活動

①こどもが創るまち「ミニシティプログラム」の研究、開発に関する事業

第 8 回「ミニヨコハマシティ」開催

内容) こどものつくるまち「ミニヨコハマシティ」の実施
場所) 都筑区内（ハウスクエア横浜等）
実行期間) 2015 年 4 月開催
従事者人員) 6 人
受益対象者 19 歳以下のこどもたち、約 700 人
支出額 428,226 円

第 9 回「ミニヨコハマシティ」開催

内容) こどものつくるまち「ミニヨコハマシティ」の準備会議と実施
場所) 都筑区内（ハウスクエア横浜等）
実行期間) 2015 年 6 月こども会議～2016 年 3 月 3 月 19 日 20 日イベント実施
従事者人員) 6 人
受益対象者 19 歳以下のこどもたち、約 700 人
支出額 773,109 円

「シニアシティヨコハマ&ミニヨコ夏まつり」開催

内容) こどもたちが運営する夏祭りの開催。今回は、大人をおもてなししようと、シニアヨコハマシティと夏祭りを合体させておこなった。
実行期間) 2015年8月23日
従事者人員) 5人
受益対象者) ひとりで参加できるこども～高校生までの青少年、一般の大人の方たち 約200人
支出額) 134,993円

②「ミニシティプログラム」の普及・啓発に関する事業

他のミニシティとの交流や地域のNPOへのイベントの協力など

内容) 「こども環境学会」「こどものまち全国サミット」
場所) 福島(こども環境学会)、静岡(こどものまち全国サミット)
実行期間) 2015年4月 こども環境会議2015 ポスターセッション参加
2015年10月 こどものまち全国主催者サミット in 静岡
従事者人員) 3人(環境学会) 1人(こどものまちサミット)
受益対象者) 全国のこども環境にかかわる事業の実施者、こども環境の研究者
支出額) 29,620円

③地域まちづくりの活性化を目指したイベントの企画・運営に関する事業

「つづきジュニア編集局」

内容) 公募で集まったジュニア記者が、こどもたちの目線で、まちを取材し、情報発信。まちのファンを増やし、まちづくりに役立てる。新聞発行等。
実行期間) 2015年5月～2016年3月
従事者人員) 3人
受益対象者) 小学4年～高校生までの青少年 約60名
支出額) 667,706円

④地方自治体や地域活動団体、国際交流団体等公益団体との協働事業

「特命子ども地域アクタープロジェクト」

内容) こども・青少年があたりまえに社会参画する地域基盤構築を目指す事業
公募で集まった39名の小学5年～高校生までの「特命子ども地域アクター」に、まちづくり講座を横浜市立大学と協力し提供し、まちづくり現場(15団体)への派遣をNPOメンバーがサポートしながら行った。派遣後に成果発表会を行い、広くまちづくり団体と青少年にかかわる団体が参加した。
実行期間) 2015年4月～2016年3月
従事者人員) 10人
受益対象者) 小学5年～高校生までの青少年39人、まちづくり団体15
支出額) 5,443,255円

「青少年のアイデアを生かした新しい防災プロジェクト」

内容) 横浜市立大学の教員地域貢献事業との連携して「地域で防災活動を担う青少年育成及び、彼らの視点を生かした参加型防災プログラムの構築」実施。5月にはクラウドファンディングにも挑戦し、寄付を集め、東北被災地研修ツアーには大人も合わせて29名が参加。その後の防災ワークショップ、防災キャンプを経て、「こども防災マイスター」が生まれた。
実行期間) 2015年4月～2016年3月
従事者人員) 10人
受益対象者) 小学5年～高校生までの青少年24人
支出額) 1,067,260円

⑤その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

「こどものまちづくり応援事業」創設

かながわ生き活き市民基金と連携し、特命子ども地域アクターで実施してきたことを一般化して、波及していくための新たな資金づくりとして、「こどものまちづくり応援事業」を基金内に創設して寄付集めに取り組んだ。